

# ROTARY CLUB OF NAGOYA MEINAN WEEKLY REPORT

2016-2017

名古屋名南ロータリークラブ

■承認/1991年3月8日 ■例会日/火曜日・PM6:30 ■例会場/名古屋マリオットアソシアホテル  
■会長/木下 福郎 ■幹事/細井 俊男 ■会報・雑誌・広報委員長/木村 猛  
■事務局/〒450-6002 名古屋市中村区名駅1丁目1番4号 名古屋マリオットアソシアホテル2202号  
TEL.052-586-2043 FAX.052-586-2054



人類に  
奉仕する  
ロータリー

URL <http://www.meinan-rotary.com> E-mail [info@mein-an-rotary.com](mailto:info@mein-an-rotary.com) 2016-17年度 国際ロータリー会長 ジョン F. ジャーム

## 第 1199 回

2016年11月8日(火) 雨 第17回

～ロータリー財団月間(11/2-8世界インターアクト週間)～

斉唱 それでこそロータリー  
出席 会員55名(出席率算入人数41名)  
出席 37名 出席率90.24%  
前々回補填率90.70%(10月25日分)  
ゲスト 野球解説者 宇野 勝さん  
米山奨学生 楊 光心さん

### 11月の結婚記念日

2日 水野 俊男さん	5日 田中 一雄さん
8日 伊藤 圭一さん	8日 鈴井 一博さん
10日 安藤 修さん	11日 佐々木 暢さん
13日 児島 徳和さん	16日 鈴木 清詞さん
23日 下村 徹嗣さん	26日 榊原 和美さん
26日 末永 祐敬さん	30日 長尾 浅吉さん

### 会長あいさつ

会長 木下 福郎さん

皆さま、こんばんは。先週の5日(土)と6日(日)に地区大会がありまして、ご出席いただいた皆さま、どうもありがとうございました。

本日は9月10日(土)に地区審議会が開かれまして、そのお話をしたいと思います。その地区審議会が開かれた理由は、本来ですと11月5日(土)・6日(日)の地区大会で昨年度の決算の審議が行われて了承されるのですが、今年からは3ヵ月以内に決算書を提出しなければならない事になり、急遽審議会が開かれました。無事に地区の決算書は承認されました。その場でRI理事の斎藤バスターがお話をされたので、私が気になった事をお話します。

2016年4月に規定審議会が開かれ、その後5月28日(土)から6月1日(水)にソウルでRI世界大会が開かれました。その場で今年のジョン・F・ジャーム会長(当時はまだ会長エレクト)がご登壇されまして、非常に深刻な顔で「ロータリーの潮目が変わった。」と言われたそうです。それはどういう意味か



と言いますと、世界中でRCは変化が想像を超えてきていて、画一的な運営が綻び始めている。

例えば、2ヵ月以上バカンスで例会を開かないクラブが出てくる。一方インドなどではRIや財団への資金は非常に沢山拠出しているのですが、例会へ全く出席しない会員が多数いるなどのクラブが出来ていて、現在は運営が難しくなってきたという事だそうです。

やはり今の流れとしては、RCというのはあまりに奉仕に重きを置きすぎているのではないかという会員が増えてきています。ただ、各クラブに自由に運営をしてくれという柔軟性が増えてきているので、やはり各クラブが自分の所で独自の方針を打ち出して、より活発な活動をして欲しいというお話でした。ありがとうございました。

### 幹事報告

幹事 細井 俊男さん

- 10月分のニコボックスの合計金額は158,000円でした。3回にもかかわらず多くのご協力をいただいたと思います。これが維持できると助かりますので、宜しくお願い致します。
- 次回の例会は11月19日(土)で秋の家族会です。15日(火)は例会がございませんので、ご確認を宜しくお願い致します。

### ニコボックス

◆野球解説者 宇野 勝氏をお迎えして。

加藤 英敏さん 中西 芳子さん 坂田 信子さん  
細井 俊男さん 中村 勝さん 東山 直史さん  
新原 尚さん 有川 英敏さん 犬飼りさ枝さん  
長尾 浅吉さん 大橋さなえさん 下村 徹嗣さん  
久米 伸治さん 日下智重子さん 大平 明子さん  
田中 一雄さん 川瀬 悟さん 佐々木 暢さん  
安藤 修さん 高橋 司さん 川辺 清次さん  
小野 雅之さん 入谷 直行さん 吉木 邦男さん  
木下 福郎さん 三浦 隆さん 三島多恵子さん  
白藤 憲雄さん 牧野 好弘さん 森田敏二三さん

◆本日は私の57回目の結婚記念日です。「お互いによく我慢したなあ」といっています。

伊藤 圭一さん

◆10月27日最高裁判所長官表彰を受賞しました。人生一丁上りです!

武藤 正行さん

本日合計 59,000円 累計 815,500円

## 委員会報告

### ■親睦活動・家族委員会 委員長 安藤 修さん

来週11月19日(土)は秋の家族会です。9時30分にマリオットアソシアホテル1階のバス乗り場に集合していただきますが、その時に身分証明書を忘れないように宜しくお願い致します。事務局から案内があったと思いますが、事務局に提示してある名前・住所等と同じ証明書をお持ちいただくようお願い致します。

また、持ち物検査等がありますので、あまり余分な物をお持ちいただかない方がいいかなと思います。宜しくお願い致します。

### ■ロータリー財団委員会 委員長 三浦 隆さん

皆さま、こんばんは。「良い事はクラブから、良い事は世界」という言葉、なかなか気に入っています。財団の100周年記念という事で、「お宝拝見」というものを企画しました。お手元にある案内をご覧ください。何か記念になる物などお持ちでしたら展示してください。

本日持って来たのは、モンゴルの弓です。弓というのは縁起物です。日本の弓と比較しても違いますね。私のお宝は15年位前に購入したレーシングカーです。この車は墓場まで持って行くつもりです。鞍やベネチアの仮面舞踏会で使用する仮面もあります。大きな絵なので持っては来られないですが、アフリカの豹と象です。こちらはオーストラリアのアボリジニの点画です。これは私が一番気に入っている素晴らしい絵です。こちらはオーストラリアで魚の絵ばかりを描いている女性の作家です。こちらはネパールのエベレストが描かれていて、そしてこちらはエーゲ海のロードス島で手に入れた絵です。アメリカで手に入れたのはモンローとバットマンの悪役です。これはチャリティオークションで手に入れた日本画です。このようなワニで作った鞆、陶器は私が作った物です。刀や芸術的な剥製、射撃もやるので銃もあります。このように色々な種類がありますが、何か記念になる物をお持ちでしたら、一度紹介していただきたいと思いますので、宜しくお願い致します。

## 外部卓話

### ■卓話者ご紹介 佐々木 暢さん

皆さまもよくご存知だと思いますが、元中日ドラゴンズの選手でして、私が小学校の時にスター選手だった宇野勝さんです。今ではゴルフを一緒にさせていただいたりして可愛がっていただいている関係で、仲良くさせていただいております。本日は多分野球の話になると思いますが、宜しくお願い致します。

### 野球解説者 宇野 勝さん

皆さま、こんばんは。私が子供の頃のスーパースターは王さんや長嶋さんで、当然皆さまご存知だと思います。だから当然ドラゴンズファンではありませんでした。その頃は、プロ野球に憧れというのが非常にありました。中学生になった時には野球部に入り、今度



は高校野球で甲子園に行きたいという夢を持つようになりました。そこで、千葉県ではどこが一番近道かと考えた時は銚子商業という事で、中学校の先生に「銚子商業に入りたい。」と言ったら、「お前の成績では無理だろう。」と言われました。案外皆さまが想像しているよりも銚子商業はレベルの高い学校でした。公立高校なので受けるだけならと先生にお願いして、受験したら運良く合格しました。

当時の銚子商業は、部員が1年生だけで60~70名位で、その1年生だけが教室に集まり、野球部のしきたりが教室中に書かれていたので自分は続かないなと思いました。練習や規律の厳しさもあるのですが、約10日間でその1年生が半分位になります。それが1年経つと20名位になり、最終的に3年間を全うできるのは大体毎年14~15名で、確かに厳しくて今では考えられないです。青たんを作って教室へ行っても誰も何も言わないです。当たり前のように先生も見過ごしていく時代だったので、非常に厳しい状態でした。

先輩方々では中日に入られた土屋さんという方が2つ先輩でいるのですが、甲子園に出たいと言いました。ただ1年生の時には土屋さんが3年生で優勝しているのですが、怪我をしていて甲子園には出場していないのです。ですから、甲子園も行っていないのです。1つ上には巨人の篠塚さんがいます。篠塚さんの時に新チームで優勝して帰ってきて、秋の大会では1回戦負けです。そういう時にエースで出て行って負けました。その時は肘を壊してしまって3回で交代し、そうなると春の大会は無理です。夏の大会も篠塚さんが肋膜炎を痛めてしまって無理で、予選も出られず。それも準決勝で習志野高校に負けてしまいました。自分は何の為に無理をして銚子商業に来たのか、こんなに厳しい練習もしているのと思いました。

残りは3年生の秋でした。やっと習志野高校に準決勝で勝ちました。決勝戦は15対0で、準決勝がほとんど決勝戦のような感じで、それで甲子園に出場できました。銚子商業の伝統として、甲子園に出場して1回戦で負けた事がないのです。春は一度あるのですが、夏は一度もないという事で、その伝統が頭に浮かびまして、高松商業とやった試合で延長戦になりました。マズイと思いましたが、そこで自分の人生が変わりました。9回裏、高松商業の攻撃で、三遊間でとったボールをファーストでアウトにしたプレーをプロのスカウトの方が見てくれました。それまでは宇野なんて何でもない普通の高校野球の選手だったのが、あいつは肩が強いな、また大型だよなという事で、結局ゲームは延長14回で勝ちました。勝ってもういいかと思いました。甲子園で純粋に涙を流している選手を見ると、1つも泣かなかったなど。うちのチームはベスト8まで行ったのですが、これで終わるのに誰も3年生で泣いている選手はいなかったなという感じでした。そこでプロという感覚はまるっきりないわけです。

先日ドラフトがありましたが、夏の大会が終わって9月か10月位に家に帰ったら、母が「プロ野球のスカウトの人がうちへ来た。」と、当時クラウンライターライオンズという西武の前身チームの人が来られて名刺を置いていったと。その時に迷いました。名古屋というのは選手とも付き合えたり、話をしたりキャンプに行ったりしてプロ野球という環境

を色々見たり出来るのですが、千葉の田舎ではプロ野球の選手に携わる事はまるっきりない、プロの世界はとんでもないという感覚なのです。

ドラフトに入っていきますが、すると中日さんがドラフト3位で指名してくれました。そして中日のスカウトの方がうちへ来てくれて、条件などを話してくれるのですが、両親が「うちの息子は人身売買ではない。金で売らない。」と反対しました。ましてや田舎なのでうちの両親はプロ野球の世界など全く分からない、確かに私も分からないのです。その時に社会人・大学・プロ野球という選択肢の中で、母ははっきりと大学に行けと言いました。次男坊だし何をしてもいいから大学に行けと。プロに行って2年や3年でクビになるのも何だかと思ってもいたのですが、当時中日ドラゴンズに2つ先輩の土屋さんが入っていました。

12月のオフにうちへ来て、どうするのかと言われました。その時には田舎の先輩がいて非常に心強かったです。その時、原辰徳さんが東海大学へ行くと言って、一緒に東海大学で三遊間を守ろうよと言った瞬間、プロに決めました。何故かと言ったら、彼はスーパースターです。スーパースターの尻について一緒に野球をやっても何もメリットもないと思いました。彼は東海大学へ行って4年間野球をやって、スターのままスターになって終わりました。

先輩もいるし非常に心強いのでプロに行きますと土屋さんには言いました。両親も決めるのはお前だからいいと言ってくれました。最初は確かに名古屋に来て怖かったです。最初のキャンプの場所が2軍のキャンプだったので蒲郡でした。蒲郡って場所は分からないけれども、行ってみると、私が生まれた千葉よりもよっぽど寒くて、こんな所でプロ野球のキャンプをやるのだかと思いました。雪が降ってきたら練習もやめてしまうし、いいのかなと思いがらです。

その時に2軍なのですが、プロの練習を色々を見て、1週間ほど体験しているうちに、「このレベルならもしかしたら俺は出来るかもしれない」と思いました。周りの人がバッティングをしてもそんなに飛ばないのに、自分がフリーバッティングをするとバンバン飛んでいくので、大丈夫かなという感覚を覚えました。その後、キャンプが終わりまして1年目の時、オープン戦で藤井寺球場だったのですが、スタメンでは出られず、途中で監督から代打で行けと言われて、いきなりホームランを打ちました。当時、近鉄の1軍の板東さんというピッチャーが調整の為に2軍に来ていて、その人の球を打ったのです。人生は何があるか分かりません。そのホームラン1本で1年目から5番バッターとして使ってもらいました。

ジュニアオールスターにも出させてもらって順調でした。順調すぎて、1軍のベンチに入った瞬間は怖かったです。1軍のベンチのビリピリとした怖さ、これが1軍かと思いつつ。1年目に高校から入って来て11日間、1軍に上がってすぐに2軍に落ちたのですが、その1軍と2軍の落差を感じて2軍に戻りました。2年目の2軍スタートというのもまた派手なスタートでして、2軍開幕から4試合連続ホームランを打ち、すぐに1軍に上がってこいという事で、代打人生をしました。そしてまた打てず、その秋に

順位が決まって上がってこいと言われて2年目の終わり掛けに3本のホームランを打ちました。それから最初に43番という背番号で入って、3年目から背番号が新宅さんという人が辞められたので、背番号をもらったという形になるのですが、7番になりました。3年目からはある程度は1軍のレギュラーっぽく、声援されるより野次られる方が多かった選手というのは結構珍しいのですが、ある程度は順調にホームランも打たせてもらいました。

プロ野球の選手というのは、遠征に行くときバイキングスタイルで食事が取れるのですが、ホテルの方が用意をしているのに、東京、広島、大阪などでは誰も食事を取ることがありません。要するにみんな外へ食べに行ってしまうのです。

星野さんが監督をしている頃までは門限がありました。ナイターが終わってから夜中の1時が門限。しかし、夜中の1時が門限という、ゲームが21時に終わってホテルに帰ってシャワーを浴びて、なんだかんだと23時位になってしまっ、大体門限に帰ってくる人は少ないです。よく破る為に門限はあると言うのですが、大事なゲームの時にはバスから降りる時にマネージャーが「今日は気をつけておけよ」と言う時には、見回りがあつたり、部屋に電話が掛かってきたりします。私も一度だけ罰金を払いました。金額は300,000円です。1人300,000円払うのですが、もし私の次の人が門限を破ると600,000円になるのです。その次の人が破ると1,200,000円になるのです。それでもみんな出掛けます。うちの奥さんも大したもの、「門限を破っちゃったから罰金が300,000円だつて。」と言ったら、「ふーん、そうなんだ。」と銀行へ行って300,000円分の1,000円札を持って来ました。素晴らしい奥さんです。星野さん以降、今のチームで門限があるのはジャイアンツくらいですかね。今の選手は給料もいいですし、それなりの活躍をしなければファンの方にも認めてもらえません。今の選手は恵まれていると思います。

それから、ご存知の方もいると思いますが、優勝を経験したのは昭和57年の最終ゲーム、横浜球場でした。横浜の関根監督に「宜しくお願いします。」と挨拶をしたら、「普通にやればお前達が勝つだろう。」というのが関根監督の言い方でした。130試合の最終ゲームですから、緊張もしました。緊張するのであれば呑めと、ロッカーにビールが置いてありました。もちろん、呑んではいませんが、そのぐらいの感じで野球をやりました。千葉の田舎で右も左も分からず名古屋に来て、このような素晴らしい皆さまの前で話をするなんて滅相もないのですが、18年間プロ野球生活をして、またコーチも7年間やらせてもらって、現在58歳です。ある程度、両親には面目が立ったかなと思います。最初は行くなと言われていましたが、田舎にも帰れるかなという感じでした。

星野さんが監督になった時には非常に辛かったです。最初に監督になった時の第一声が「覚悟しておけよ。」で、シーズンが終わるまで1日も休みがなかったです。移動日であろうが雨であろうが何だろうが必ず毎日練習でした。1988年に優勝しているのですが、今の選手は休んだりしているのも非常に羨ましいです。

今まで対戦してきた中で、一番いいピッチャーとは言えば、江川さんですと即答します。今のピッ

チャーはチェンジアップやフォークボール、スライダー、カットボールなど色々投げますが、江川さんが凄かったのはストレートとカーブしかない所です。2種類で20勝しています。というのは、非常にコントロールが良くて、ボールが速いのです。ただ、6番・7番バッターに対しては必ずナメてくるので、江川さんからホームランを打たせてもらっていました。要するに主力のバッターには力を入れるのですが、下位打線には力を緩めるのです。そういう面では江川さんはコントロールもスピードも流石に20勝するピッチャーかなと思います。

小林繁さんのボールも覚えています。大体対戦したピッチャーは、こういう球筋で急所はどこでというのは覚えています。私よりも1つ上なのですが、広島北別府さんは多分対戦が一番多いと思います。1つ違いなので同じ時期にずっと出ていて、恐らく2割そこそそしか打ってなくて、かなり抑えられたイメージしかありません。恐らく解説の方はスコアブックを持って書きながらでないと全打席を覚えられないと思いますが、私は書かない方が覚えようとするので、次にあの打席で何のボールを何で打ったかというのは、1試合に関しては多分ほとんど覚えています。解説をしながらもほとんど覚えている感覚です。

覚えるということと色々なサインがあるのですが、トレードに行った選手とか違うチームに行った選手とかがいるので、必ず毎年サインを変えます。ですから非常に迷う時があります。足し算・引き算でやる時もあるので、そうするとバッターボックスで頭を打つ時もあります。オフェンスやディフェンスのサインなどかなりの数のサインがあるので大変です。ただ、選手はここにボールが来たらこうだ、ランナーがいたらこうだと予想しながらサインを見るので、ある程度は大丈夫なのですがたまに間違える場合もあります。かなりサインも複雑になっています。コーチの方もチームを移ったりしているので、そういう意味ではかなり複雑なサインになっている可能性があります。その日によってもイニングによっても大分違うのですけれどもね。

私が監督をやる可能性は?と聞かれましたが、今のプロ野球ははっきり言って面白くありません。お客さんが高いお金を出して見る野球を、ましてや今年の中日ドラゴンズはしていないですし。

では、何が面白いプロ野球なのか、どうすれば野球が面白くなっていくのかと考えると、我々の時代は沢庵を食べていましたが、現代の選手は牛肉を食べて育っていますから力があります。そういう面ではもっと日本の野球もメジャーリーガーのようにパワー野球でいいのかなと思います。1回の表から送りバントをしなくてはいけないような野球をやっているのは、いつまでも日本の野球は成長しないし、ノーアウトランナー2塁でこんな格好をして右方向に打っているなんてみともない。でもそこで解説者はこう言います。「ここは最低でも右方向に打ってランナーを進める。」ここはセカンドにいるランナーを返すのだからという野球をしていかなければ、バッティングの技術も上がっていかないでしょうし、野球自体も面白くなっていかないでしょう。もし1回表に監督がバントのサインを出して、2番バッターがバントの構えをしたら、「何やってんだ!」というブーイングを出す位のファン

になって欲しいと私は思います。7・8・9回になってチャンスの時に1点取れば勝ちという時には当然バントもあり、右方向もありだと思います。アメリカ・キューバ・ベネズエラという中南米の選手と普通に戦ったら敵うわけがないのです。ただ一回やってWBCで世界一になれたというだけです。私が監督をやったらバントも無しでボロボロになって最下位になるかもしれないけれども、必ず強くします。そのぐらいの信念でやるという事です。ありがとうございました。

## 第 1201 回例会 (11 月 22 日) のご案内

社会奉仕委員会 卓話